

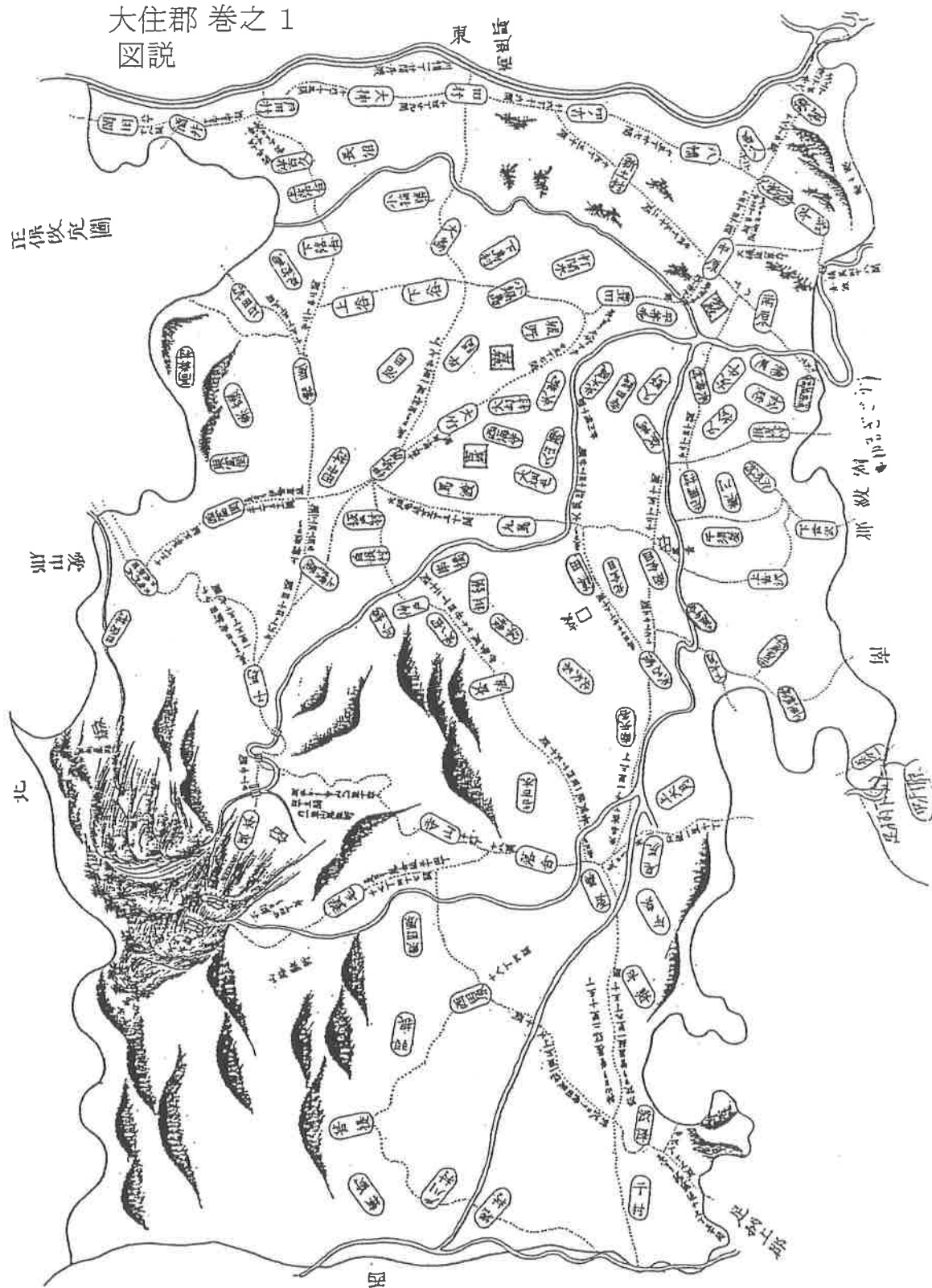
(9) 新編相模国風土記稿 [抜粹]

卷之 42

村里部

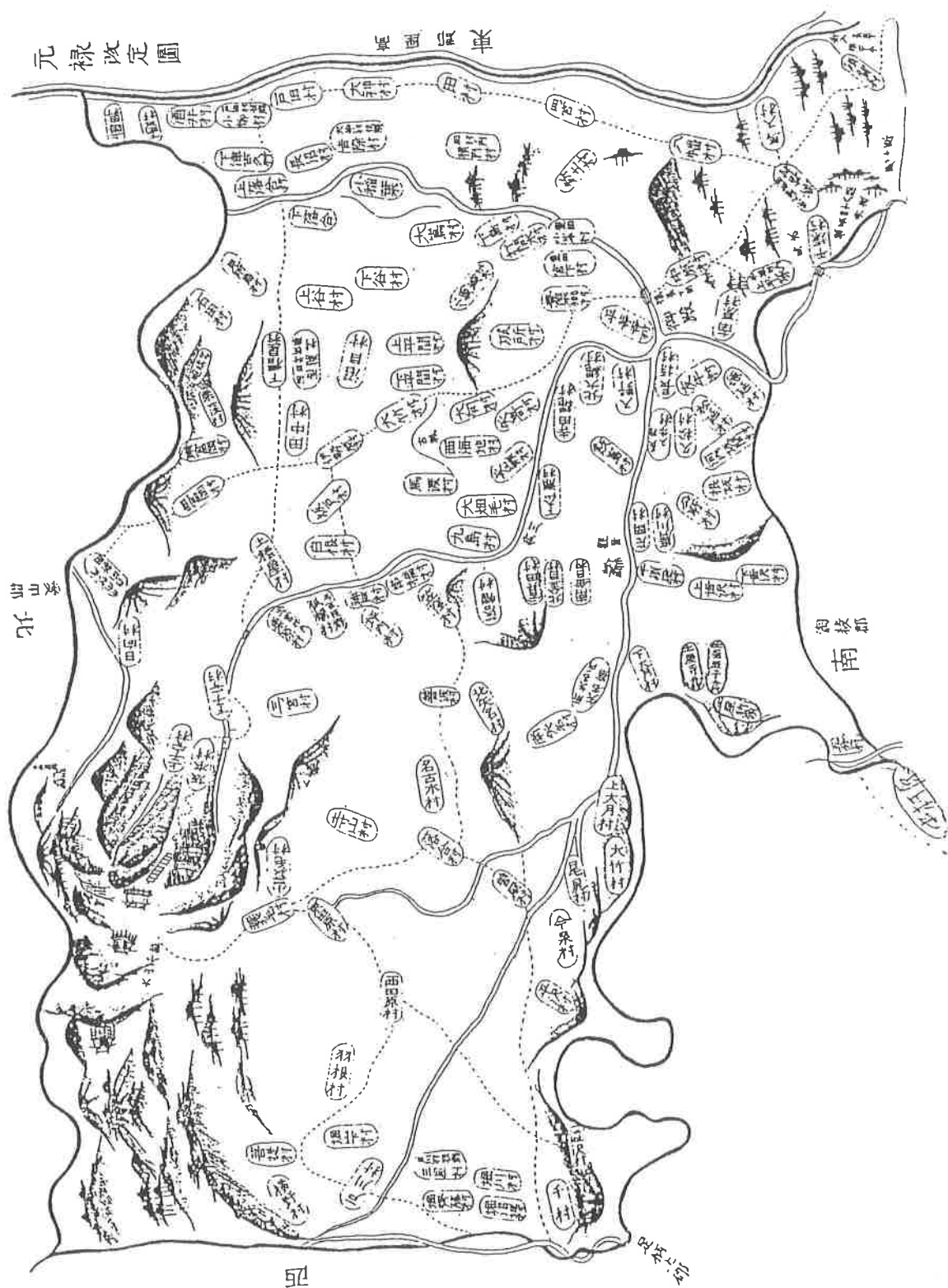
大住郡 卷之 1

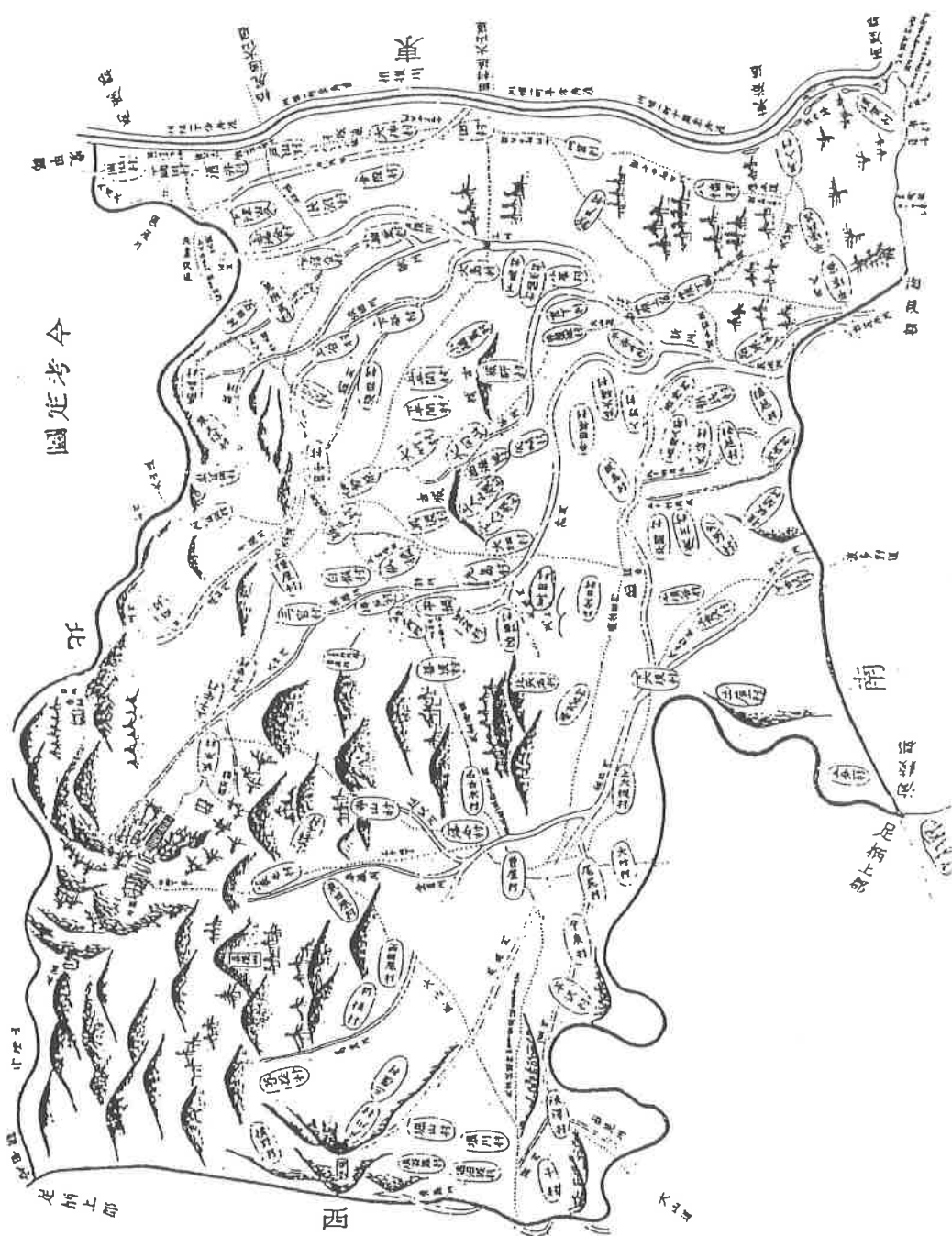
圖說



元禄改定圖

坂田風量





土屋郷には中村庄司宗平の三男土屋三郎宗遠始て居住（安ずるに東鑑に治承4年10月23日、頼朝勲功の賞を行ひし時、本領を安堵し、或は新恩に浴せし者の内宗遠の名あり。また建久2年4月27日、当国生沢直下神社主清包の訴に因て、宗遠を召決せらる条に、地頭土屋三郎と記せり。生沢は洵綾郡の属にて、土屋村の按地なり。）せしより、子孫代々領せしなり。

後世其地を土屋惣領分、同庶子分なりと唱えしは、（元禄の頃迄、各別村なりしか。今は合して一村となり、其唱は小名となれり。）彼子孫に至り、嫡庶の領を分ち唱えし遺名なり。

（ 略 ）

今所唱合郷 24 --- 土屋 （津知也）

今所唱合庄 5 ---

波多野庄 ・ 糟谷庄 ・ 八幡庄 ・ 豊田庄 ・ 土屋庄

卷之49

村里部

大住郡 卷之8

糟屋庄

土屋村 （津千也牟良）

土屋郷に属す。此地名は古くより聞えて。往昔中村庄司宗平の子。土屋弥三郎宗遠。当所を領し。在名を以て氏とす。（寛永土屋系譜曰。伝えいう。平氏の後胤。中村宗平が子。宗遠の後なり。宗遠相州土屋を領する故に。始て土屋と号す。其後昌遠に至り。武田信虎に従い。浪人となり。京師に赴くとき。土屋の系図を。先祖の菩提所。豆州大平の郷真光院におさむ。其後かの院滅亡に及とき。系譜紛失す。故に今過去帳にしるす所を。考えてこれを載す。按ずるに。宗遠は村内芳盛寺を開基す。）東鑑に宗遠を始め。土屋氏の者。多く見えたり。（土屋弥三郎完光。同新三郎光時。同大学権介義清。同弥次郎忠光。同兵衛尉宗長。同次郎時村。同七郎左衛門尉行頼。同新兵衛。同次郎。同三郎。同四郎。同左衛門二郎。同新左衛門尉等にて。此内宗光は。宗遠の子。光時は宗光の子。義清は中村庄司宗平外孫なり。詳なる事は人物に出す。）皆子孫氏族等なるべし。昔当所に住せし法師。高年に及て。將軍実朝に謁せし事あり。（金槐集欄で記するため略）古は土屋寺分・同惣領分・同庶子分と。三村に分てり。（北条役帳。及び正保元禄国図。皆三村とす。）今は合て一村とす。（年代詳ならず。）又古五分一村は。当村の属地たりし事。北条役帳に見えたり。永禄の頃は。足柄下郡。湯本村。早雲寺領。（役帳曰。早雲寺。138貫200文。中郡土屋惣領分。）及び神田次郎右衛門。（曰。2貫文中郡土屋寺分。）石巻正寿（曰。50貫文。中郡土屋庶子分。）等知行す。

（ 中略 ）

今地頭柳沢伊三郎（200石の地を。当所寺分にて賜りし事。寛永譜に見る。）

（ 中略 ）

波多野道（幅9尺。）梅沢道（幅4尺。）曾屋道（幅6尺。梅沢道の岐路なり。）

小田原道（幅6尺）の4路係る。江戸より19里。民戸189。東西31町。南北25町余。（東上吉沢。南金目2村。西足柄上郡。井ノ口。本郡下大槻2村。南足柄上郡。井ノ口。淘綾上郡。黒岩。西の久保。一色。本郡上吉沢等5村。北金目川を境。南金目。下大槻2村）検地は。寛文11年。（窪田氏采地。）延寶3年。（横山長谷川2氏采地）寛保元年。（長谷川氏采地）等に糺せり。又寛文5年。成瀬五左衛門重治新墾の畑を糺せり。

高札場七

小 名 ・寺分・庶子分・惣領分

山 ・所々に在。大久保山。池田山。向山。ふじ山。入山。小芹沢山。鷺坂山。等の字あり。皆小山なり。

坂 三 ・鷺坂。（登3町。）関口坂。（登1町。下同。）長坂と呼ぶ。

金目川 ・北方村境を流る。（幅18間より25間に至る。）堤。（高5尺許）あり。

座禪川 ・坤方。山々より湧出ずる。数条の水合て。中入沢。（幅2間。）と唱え。夫より下流に至て。此三名あり。南金目村境にして。金目川に合す。

三笠川 ・南方の山間に涌出し。村内にて座禪川に合す。（幅1間。）

熊野社 ・村の鎮守なり。神祇木像。本地仏十一面観音。例祭9月29日。天正19年。社領5石を寄付せられ。御朱印を賜う。元和4年9月。修造の棟札あり。神木の杉。（周一丈二尺。）あり。

別当持宝院 末社 十二社権現・第六天

ネノ

子神社 ・村民持。下同。

ハクサン

白山社

第六天社二・一は村民持。・一は天宗院持。

若宮八幡社・土屋宗遠が再興せし社なりと言伝う。村民持。下同。

木舟明神社・是も宗遠の再興なりと言う。

天王社 二・一は天宗院持。・一は芳盛寺持。

愛宕社 ・天宗院持。下同。

神明社

芳盛寺 ・土屋山無量寿院と号す。古義真言宗。（紀州高野山。無量寿院末。）相豆武三州の檀林所なり。古は阿弥陀寺と号せしを。応永年間。中興長覚の時。今の号に改む。開山退耕行勇。（足柄下郡酒匂村の産。仁治2年7月5日。鎌倉葛西谷。東勝寺に於て卒。79才。普応国師と諡す。其伝人物の部に詳なり。）中興長覚。（羽州の人。出羽法師と号す。応永23年11月15日。高野山無量寿院に於て卒。）重興志玉。（後醍醐帝の皇子。宇津峰親王の子。圓總上人と号す。明朝に渡り。帰国して。寛正4年9月15日卒。）（以下略す）再中興。左学頭師山。（寛永16年7月17日。鎌倉郡手広村。青蓮寺にて卒。）開基土屋弥三郎宗遠。（建保元年8月5日卒。年9

0。法名阿弥陀寺殿空阿。)中興開基。足利氏満(応永5年11月4日逝。法名永安寺殿。)重興大森式部大輔芳盛。(小田原城主。康正元年3月5日卒。硯照院了眠浄正。)本尊弥陀。(恵心作。長三尺一寸六分。)又同像一軀を置。(厨子に。大森式部大輔芳盛入道再興と記せり。土屋宗遠が守護仏と言伝う。)

- ・稻荷社 ・水神社
- ・千駄堂 今本尊正観音。一駄を安す。あとは焼失せり。
- ・堂 観音地藏二駄を置。

地頭窪田氏墓四基。寛文5年。窪田又六郎正次。(法名大円道智。)元禄3年。又右衛門正俊(正次の子。法名心解徳翁。)等の墳墓にて。其余りは妻女の墓なり。

大乘院

- ・星光山弘宣寺と号す。天台宗。(武州入間郡仙波村。中院末)中興開山円海。(応永10年2月18日卒。)本尊弥陀。天正12年2月。末寺東光寺。(南矢名村。)寺領のことに依て。北条氏より文書を興う。(東光寺所蔵す。其文同寺条に注す。)19年。寺領10石の御朱院を賜う。
- ・鐘楼。延享2年の鑄鐘を掛る。
- ・三王社。庖瘡神社
- ・古碑一基。土屋弥三郎宗遠が。墓碑と言伝う。
- ・塔中金蔵院。客殿以下。大破せし故。本尊弥陀は。今本坊に安す。此餘大安寺。宝性院。阿弥陀院の。三寺在しが。今廃なり。

天宗院

- ・八沢山東円寺と号す。古は真言宗なり。正保4年天台宗に改め。(江戸浅草東光院末。)定円寺と号せしが。明る慶安元年。東叡山の免許を得て。今の山寺院号を称すと言う。(按ずるに。延宝7年2月。本寺より当寺へ興へし文書に。相州東円寺。当寺末寺に候間。自今以後。山号院号加え八沢山天宗院とあれば。此時より山院の号を唱えしなり。慶安元年と言うは誤なり。)開山真慶。(延宝6年11月8日卒。)開基は、地頭田沢久左衛門なり。(承応3年5月27日死。法名天宗院心誓了清安徹。)本尊三尊弥陀。
- ・薬師堂。
- ・地頭田沢氏墓碑5基。田沢久左衛門以下。分骨を納むと言う。(茶湯料として。新畑8反を寄付す。)

妙圓寺

- ・和光山醫王院と号す。(大乘院末。下4ヶ寺同。)
- 開山舜堯。(承応3年12月21日卒。)開基。月盛妙圓。(正保4年12月19日死。村民の祖水島五郎右衛門と言し者の母なり。)本尊弥陀。
- ・鐘楼。鐘は。元禄5年の鑄造なり。
- ・弁天社。社辺に岩屋。(入口2間。深5間余。)あり。内に蛇形の神駄。及伝教慈覚の像を安す。
- ・薬師堂。本尊は行基作と言う。(秘仏)水島五郎右衛門建立す。

- 正藏院 ・ 星峰山観音寺と号す。本尊弥陀。
 ・ 弁天社。第六天稻荷を合祀す。天王社。
 ・ 観音堂。如意輪観音。（行基作。長6寸。）を安す。
- 正福寺 ・ 木舟山薬王院と号す。本尊薬師。
- 宗憲寺 ・ 谷田山清泉院と号す。開山勝栄。（天正16年11月29日卒。）
 本尊弥陀。
- 持宝院 ・ 小熊野山福王寺と号す。本尊弥陀。
 ・ 山王社
- 阿弥陀堂 ・ 村民持。
- 薬師堂 ・ 芳盛寺持。
- 地藏堂 三・一は天宗院。 一は妙圓寺。（本尊行基作。） 一は持宝院持。
- 土屋弥三郎宗遠居蹟
 ・ 宗憲寺境内なりと言う。其辺の字に。下屋鋪。屋鋪内などの。唱あるのみ。
 遺形と覚しき所なし。
- 神事舞太夫。若杉兵部と称す。江戸浅草。田村八太夫配下なり。

